



SSHの取組がわかやま新報に掲載されました！



研究員の説明を真剣に聞く生徒たち（向陽高校提供）

科学への興味関心高めて

向陽高1年が放射光施設見学

科学に対する興味・関心を高めようと、県立向陽高校（和歌山市太田、松本幸校長）の1年生319人がこのほど、兵庫県の大型放射光施設「SPring-8」を訪れ、放射光X線がバッテリーやシャンプーといった身近な物の研究にも役立っていることを学んだ。

同校は4月、文部科学省から4期目となる「SSH（スーパーサイエンスハイスクール）」の指定を受け、科学分野を中心にさまざまな取り組みをしている。その一端として今回、太陽の100億倍もの明るさに達する「放射光」という光を使い、物質の原子・分子レベルでの形や機能を調べる（とができる）同研究施設を訪ねた。

同校の教諭で、SSH推進部の谷地祐介部長（34）は「主体性や科学コミュニケーション力を育成し、理系の道に進んでいきたいと思っ



スーパービームX線を使った実験も（向陽高校提供）

うれしい」と期待。生徒からは「科学に対する興味や関心が大きくなった」「これからもっと自分を知りたいことを追求していきたい」と思っ

わかやま新報（令和5年7月6日）より

男性のイメージがあつて少しためらつていたが、SPring-8には女性の研究者もいると分かった。将来の夢の選択肢が広がったと話していた。

6月9日（金）、高校1年生を対象にラボツアー（研究室訪問）を実施し、兵庫県にある「SPring-8」を訪問しました。この取組がわかやま新報（令和5年7月6日）で紹介されました。SPring-8での活動の詳細はSSHニュース第10号を御覧ください。